

資料1 「区立図書館の現状と課題」

4つの目標	10年後の姿	現状と課題
区民の学びと自立を支える 課題解決支援型 図書館 ※1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の情報拠点として、区民の学びと自立を支える ○ 生活や地域の課題解決を支援する ○ そのために、図書資料を多様な媒体で収集保管 + 区民のライフステージやライフスタイルにおける専門的な事柄にも対応できる機能 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各館で特色ある図書資料を収集、企画展示の充実 + 区民への課題解決支援機能の強化 ○ 電子書籍については、国立国会図書館が実施しているサービスとの連携・協力 + 区立図書館として収集・提供すべき電子書籍を検討 ○ ネットなど様々な情報資源の中から、必要な資料や情報を迅速かつ的確に入手・活用 ○ 学生、ビジネスマン、外国人などが必要とする様々な知識や情報を的確に提供

4つの目標	10年後の姿	現状と課題
家庭、学校、地域と連携・協力し、子どもの読書活動を支援する図書館※1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの読書活動の推進 ○ 家庭、学校、地域、図書館が各々主体的に、また相互に連携しながら取組を進める ○ 子どもたちの自主的な読書活動の動機付けと読書環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが幼少期から読書習慣を身につける ○ 図書館が核となって、乳幼児施設、家庭、学校、地域と連携

4つの目標	10年後の姿	現状と課題
郷土の歴史と特性を活かし、文化を創造・発信する 図書館 ※1	○ 区にゆかりのある作家等の情報や、史跡・旧跡・文化財等の観光資源情報を収集・発信 ○ それにより、区民の地域への愛着の形成や、観光・地域活性化が図られている	○ 区内の文化関連情報や、史跡・旧跡等の資源を活用し、地域への関心を高め、観光や地域の活性化につなげる（新たな利用層の発掘） ○ 行政資料・地域資料は、図書館ホームページ上でキーワード検索して閲覧できるよう電子化 ○ 区民学習グループ等への知的活動支援による新しい文化の創造

4つの目標	10年後の姿	現状と課題
<p>良質な区民サービスを提供する 図書館 ※</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報通信技術等を活用した効率的な事業展開 ○ 誰もが簡単かつ快適に図書館サービスを受けられる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最新の情報通信技術を活用した、サービスの向上 簡素効率的な管理運営 ○ 地域図書館の施設規模と配置の見直し

	10年後の姿	現状と課題
<p>その他</p> <p>※「区立図書館の今後の取組(考え方)」以外の事項</p>	<p>○区立図書館に係わるもの</p>	<p>○ 登録者数の少なさ（23区最下位の可能性が高い）</p> <p>○ 児童書の1人あたり貸出冊数（23区最下位－1位と5倍程度の差）</p>
		<p>○ 視聴覚資料の老朽化</p>
		<p>○ パソコン利用、自習等の機能への未対応（一部対応）</p>
		<p>○ 明確なゾーニングによる様々な利用者への配慮（音の感じ方の違い）</p>
		<p>○学校図書館に係わるもの</p>
	<p>○ 学校司書（学校図書館指導員）の対応時間が1日4時間、週4日のみ</p>	

具体的な取組（課題解決）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
① 各館の個性づくりを目指した蔵書構成の充実	充実	パスファインダー発行 (各館23号まで)	各館で年6回発行 (平成31年4月：各館48号)	紙面の見直し＝情報アクセスに重点 (平成31年4月～)	○各館ごとのテーマ設定の有 用性の再検証
② より専門的な課題にも対応できるレファレンス・サービスの充実	充実	外部のレファレンス研修への参加 オンラインデータベース :朝日新聞『聞蔵』	レファレンス協同データベースへの事例登録・一般公開数を追加 朝日新聞データベース『聞蔵』の「明治・大正」(平成29年)と「全国の地域面」(平成30年)を追加	研修参加の継続による各主題のレファレンスノウハウの蓄積 ※平成30年度「レファレンス協同データベース事務局」から取材を受け、手法等がレファ協サイトで公開されている。	○職員の専門性を向上するため作業時間の確保 ○商用データベースの充実 (新図書館で整備予定)

具体的な取組（課題解決）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
③ 地域のボランティア団体等の育成・活動支援や、ボランティア団体等との連携事業の実施	新規				
④ 電子書籍(障害者向けデジタル図書、地域資料などを中心に)の収集・提供	新規	<p>デジタル資料提供</p> <p>サピエ図書館登録(デジタル資料ダウンロードサービス)</p>	<p>デジタル資料18タイトル追加(～平成31年3月)</p> <p>わいわい文庫より7タイトル追加</p>		<p>○所蔵資料リスト提供方法などの検討</p> <p>○未登録者・未利用者への周知方法の検討</p>
⑤ 情報活用力の向上のための講習会等～はじめてのタブレット型PC講座、情報検索活用講座など	充実	<p>タブレット体験講座(あいロード)</p>		<p>Wi-Fi環境の整備(平成31年4月全館)</p>	<p>○情報検索活用講座の計画を検討</p>
⑥ 中野のまちづくりの進展に併せた、学生、ビジネスマン、外国人向け資料の充実	新規				

具体的な取組（子ども読書活動）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
① 子ども読書活動推進計画の取組推進～特に、子どもと保護者が本に触れ合う機会の創出、地域の乳幼児施設におけるボランティア活動への支援	充実	<p>お話し会、絵本講座の実施</p> <p>→おはなし会 ：530回4972人 小さい子向け おはなし会 ：96回1454人</p> <p>ブックリスト配布</p> <p>リスト本の長期貸出し</p> <p>※登録率 10歳代未満 24.8% 10歳代 40.5%</p>	<p>子ども食堂でお話し会実施（今年度より・江古田）</p> <p>→おはなし会 ：545回6145人 小さい子向け おはなし会 ：96回1210人</p> <p>※登録率 10歳代未満 23.9% 10歳代 23.3%</p>	<p>研修で職員のレベルアップ（国立・都立図書館及びVIAX社内での専門研修参加）</p>	○子育て広場との連携を模索

具体的な取組（子ども読書活動）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
②地域開放型学校図書館の整備 ○児童の学習環境の拡充 ○子ども読書活動の促進 ○区民の利便性の向上（貸出・返却窓口） ○レファレンス・サービスの提供 ○子育てやまちづくりなど地域課題の解決に資する図書の充実 ○ボランティア団体等の交流ネットワークづくりを推進 ○小学校の大規模施設整備を行う際などに、順次導入。	新規		平成32年9月：みなみの小、美鳩小開設（以降、改築等に合わせ順次開設）		○運営経費

具体的な取組（郷土の歴史と特性）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
①中野区ゆかりの作家等に関する情報や、史跡・旧跡・文化財等の観光資源情報の収集・発信	充実	資料収集のための発信僅少 区内関係機関とは展示への協力や個別の問い合わせ	地域資料に関する展示と中野区ゆかりの人に関する展示を開始（年1回）	歴史民俗資料館との連携による地域資料レファレンスの対応強化	中野区立歴史民俗資料館を含めた他の関係機関との連携強化 著作権や肖像権等の権利処理
②行政資料・地域資料の電子化と閲覧・貸出サービスの実施	新規	—	平成28年度から、行政資料・地域資料の電子化に着手 平成31年4月時点で、書籍コンテンツ290点、動画コンテンツ67点	平成29年度「デジタルアーカイブ」をWeb上で開設	○著作権、肖像権等の処理に課題

具体的な取組（郷土の歴史と特性）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
③区内大学など区内の様々な機関との協働による、多様な事業の実施	充実	平成28年3月東京工芸大学連携事業（写真展）実施	平成30年度から連携事業を年2回	平成29年度から明治大学と連携事業（生涯学習に重点）	○連携先の確保
④なかの里・まち連携自治体等との協働による、魅力ある事業の実施	新規	参考室で「なかの里・まち連携自治体展示」を常設	平成29年度から「なかの里・まち連携事業に関する展示」を実施	-	○連携自治体との具体的な連携事業の実施
⑤魅力的な蔵書構成や時機に対応した事業展開＋多様な広報媒体を活用した文化情報の積極的なPR	充実	シイビブリア（館報）：平成27年4月で12号	「シイビブリア」（年6回）：平成31年5月に37号	平成31年5月：紙面を見直し、各図書館情報を追加	○広報領域・手法の見直し ○各館ごとのテーマ設定、その実施方法の見直し
⑥郷土資料等の提供による、区民学習グループ等への知的活動支援	新規				

具体的な取組 (良質なサービス)	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
①簡素効率的な図書館運営～サービス向上と経費節減	充実	-	-	-	-
②関係機関との協働（地域商店街、医療機関、ボランティア団体等）	充実	地域商店街への出張図書館 →4回268人 医療機関へ絵本等の長期貸出 おはなしボランティアへの活動場所の提供等	地域商店街への出張図書館 →4回189人 左記事業のほか、すこやか福祉センター・児童館への絵本講座の一部開催増加	平成29年度から、区役所・各すこやか福祉センターで、母子手帳交付時に乳幼児向けのブックリスト等を配布	
③ICタグとBDS自動貸出・返却機の導入	新規		令和4年1月～2月：新図書館開設に伴い整備（新図書館＋中央図書館）		

具体的な取組（良質なサービス）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
<p>④図書館の今後の機能の拡充</p> <p>○地域図書館：課題解決支援機能や地域文化の発信拠点としての機能を強化＋個性ある地域図書館の充実。施設配置の見直し</p> <p>○地域開放型学校図書館（小学校）：学校教育関連の児童図書を中心＋地域の課題解決支援に資する図書。</p>	新規	平成27年4月「区立図書館の今後の取組（考え方）」策定			
<p>障害者サービス（高齢者サービス）の利用促進</p>	追加	<p>録音図書・点字図書等貸出サービス：登録42人、貸出118人、貸出点数352点</p> <p>在宅配送サービス：登録118人、宅配回数513回、貸出点数2187点</p> <p>対面朗読サービス：登録14人、回数108回</p>	<p>録音図書・点字図書等貸出サービス：登録31人、貸出181回、貸出点数467点</p> <p>在宅配送サービス：登録92人、宅配396回、貸出点数1811点</p> <p>対面朗読サービス：登録14人、回数108回</p>		<p>○施設・サービスのユニバーサルデザイン化</p> <p>○利用者の増加（周知方法等）</p> <p>○ICTの活用</p>

具体的な取組（その他）	区分	27年当時	その後の推移		課題・進め方
			量的な対応	質的な対応	
○ 登録者数の少なさ（23区最下位の可能性が高い）					
○ 児童書の1人あたり貸出し冊数（23区最下位-1位と5倍程度の差）					
○ 視聴覚資料の老朽化					
○ パソコン利用、自習等の機能への未対応（一部対応）					
○ 明確なゾーニングによる様々な利用者への配慮（音の感じ方の違い）					
○ 学校図書の老朽化					
○ 学校司書（学校図書館指導員）の対応時間が1日4時間、週4日のみ					